

木村龜二 きむら かつら 刑法學者、法學博士。明治二十年十一月五日兵庫縣生
丸、昭和四十七年二月十五日没（一九七二—一九七三）。大正十年東京帝國大
學法學部卒。九州帝大、法政大學、東北帝大、新潟大學、明治大學、
前澤大學各教授歴任。傍ら法制審議會委員として立法過程に參與。
譯著書に、レオン・デュギイ著『國家變遷論』（譯、大正十五年十一
月十五日岩波書店）、『ルツー民約論』（昭和十年十一月五日岩波書
店『大思想文庫』、復刊、二十二年七月二十日岩波書店）、『刑事政
策の基礎理論』（昭和十七年十一月二十五日岩波書店）、『文化の形
成』（昭和十八年四月二十日河出書房）、『死刑論』（昭和二十四年
十月五日弘文堂『アテナ文庫』）、『斷頭臺の運命』（昭和二十八年
二月十日角川書店）、レオン・ラジノウィツチ著『激情犯—愛欲と犯
罪』（土屋文吾共訳、昭和二十二年十一月二十日日本評論新社）等。

